+art プロジェクト

河村咲季（環境デザイン系 3 回生）

キーワード：アート，デザイン, 地域交流

1. 団体概要

+art プロジェクトとは総合美術同好会から派生した地域イベント関連の創作活動を行うプロジェクトである。地域イベントに我々が制作した作品を提供することで, 地域住民及び来場者の満足度と体験価値の向上を目的として活動に取り組んでいる。

2. 活動紹介

2.1 活動概要

今年度は,志方広尾東コスモスまつりと姫路城マラソン 2025 の二つの地域イベントに参加した。

表 1　2024 年度の制作活動

10 月	志方広尾東コスモスまつり
12 月	姫路城マラソン 2025 横断幕制作

（出所）執筆者作成

2.2 広尾東コスモスまつり

コスモス畑を開放した兵庫県加古川市志方町東地区で行われる地域住民主体のイベントである。

まつりを運営する広尾東営農組合では, 以前より大規模なアートを展示したい考えがあったが, 人手不足で実現が難しかった。そこで, 当団体が地元の方と協力し, 大規模な制作活動を通じてイベントの魅力向上に貢献することとなった。参加にあたり, 次の目標を設定した。『当団体と営農組合のアートを展示することで他のコスモスイベントとの差別化を図り, 既存のまつりに新たな価値を提供する。』

上記の目標を達成するため,地元の方と協力して参加型・観賞型の二種類の作品を制作した。(表 2)

表 2.　制作作品

参加型	1.らくがきロード
	2.トリックアート
観賞型	3.看板
	4.額縁

(出所)執筆者作成

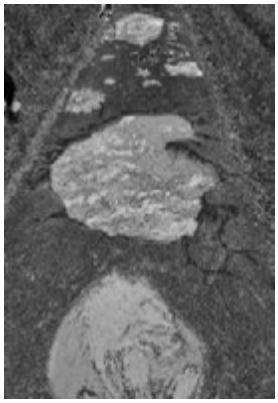

写真 1　参加型作品
（出所）所属学生撮影

写真 2　観賞型作品
（出所）所属学生撮影

参加型のらくがきロードではコスモスまつり開催地の一部の道路を来場者が自由にチョークで落書きできるスペースにした(写真 1)。らくがきロードの一部に当団体メンバーと地元の方が,道路が陥没した絵や下り階段などのトリックアートを描き,来場者が参加できるフォトスポットを配置した。

観賞型作品の看板は来場者が集まる駐車場入口付近に設置した。コスモスをモチーフとした巨大な絵になっている。額縁はコスモス畑内のインスタレーション作品として制作した。背景のコスモス畑が絵画に見えるように工夫し,一部の額縁にはコスモスにちなんだ与謝野晶子の詩を浮かべる演出を施した。(写真 2)これらの作品を制作してコスモスまつりに臨み,多くの来場者に作品を見ていただいた。

表 3　ヒアリング内容

1.アート作品の準備について
2.まつり開催期間中について
3.アート作品について

(出所)執筆者作成

写真 3　ヒアリングの様子
（出所）柴崎先生撮影

まつり開催後に地元の方(3 名)と当団体メンバー(2 名)でコスモスまつりについて振り返りを行った。

表 3 の内容を主要テーマとし,KPT 法(K:keep P:problem T:try)でヒアリング調査を行った(写真 3)。

アート作品の準備に関しては,学生と協力して作品を作ることが新鮮で楽しかったという意見があった。また,まつり開催期間中よりも,作品の準備期間の方が地元の方と学生が密に関わる貴重な機会だった。一方,協力して作品を制作した一部の地元の方以外は学生と関わる機会が少なく,閉じた活動になってしまったことが反省点だ。これを改善するため,今後は地元の定期的な集会で当団体がコスモスまつりで行う活動を広報し,多くの住民の方々に制作活動を知ってもらうことなどが考えられる。

まつり開催期間中については,多くの来場者がまつりに足を運ぶことが地元住民の喜びになっており,今年度は作品に興味を示す来場者が多かったとの意見が出た。今後もまつりの規模を維持し,例年通り多くの来場者に来てもらうことを目指しているものの,開催側の高齢化と人手不足で将来継続が困難になる問題が見えてきた。これを受け,人手不足緩和のため,今回のらくがきロードのような少ない労力で大きな効果を発揮する企画を行う必要がある。また,高齢化と人手不足を踏まえ,単純に来場者数が増えることがまつりの成功と言えるのかを改めて考え,将来的なコスモスまつりの理想の形を地元の方々主体で検討する必要があると分かった。

アート作品については,4 種の作品を制作したが,特にらくがきロードは多くの人が利用し,準備の手間が少ない割に最も来場者の反響が大きかったとの意見があった。設置場所は開催場所の中でも隅の方にあるコスモス畑に隣接する道路で,例年来場者が少ないエリアだった。しかし,参加型のらくがきロードができたことで子供連れを中心に多くの来場者が足を運ぶようになり,何十メートルもある道路が埋め尽くされるほど絵が描かれた。このように,参加型の作品が来場者の回遊例を高める事例が見られた。一方,観賞型作品においては,制作者や制作意図などの情報の説明不足が目立った。解決策として,今後は,観賞型作品にキャプションを付けることや,制作者(学生)が来場者に対して直接作品について説明を行うべきであるなどの意見が挙げられた。

写真 4 今年度の横断幕
（出所）所属学生撮影

2.3　姫路城マラソン 2025 横断幕制作

姫路城マラソンは,2025 年 2 月 23 日に開催される姫路市と兵庫陸上競技協会が主催のマラソンイベントである。姫路城前の大手前通りをスタートし,姫路城三の丸広場をゴールとしたコースで,2025 年は約 9000 人のランナーが参加する。マラソンに参加するランナーを応援するため,当団体が縦 1 m×横 5m の巨大な横断幕を制作し,姫路市に提供した。

今年度の作品は,赤・金を基調としている。モチーフは姫路に所縁のある黒田官兵衛を用い,官兵衛が指揮する兵隊が太陽の方向に前進する構図を採用した。(写真 4)『疾風の如く』の文字は習字が得意なメンバーが担当し,力強くランナーを鼓舞するデザインにするため,字の周囲を金色に囲い迫力を出している。また,初めての取り組みとして金箔を使用した。金箔は異素材として横断幕のメインカラーである金色に深みを持たせ,戦国時代の和風の要素を引き立たせる役割を果たす。金箔は剝がれやすく耐久性が低いなどの懸念点もあったが,ラップで保護してから布用ボンドで貼り付ける方法を新たに考えるなどの工夫を施して金箔の実現に至った。

今年度から一二年生も新たに団体へ加わり,昨年度を超える横断幕を制作することができた。

3. 活動を通して学んだこと

活動を通じ,私は地域と連携することで新たな価値を生み出すアートの可能性を学んだ。特に,志方広尾東コスモスまつりでは,地域住民と協力し,参加型・観賞型の作品を制作し,イベントに新しい魅力を加えることができた。らくがきロードは簡単な準備でありながら多くの来場者に楽しんでもうことができ,少ない労力で効果的な成果を上げる企画の重要性を実感した。また,制作過程で地域の方々との交流を深め,アートが地域住民とのつながりを生むきっかけになる可能性を秘めていると感じた。一方で,一部の住民しか関われなかった点は課題として認識し,今後はより多くの地元の方が参加できる仕組みを考える必要があると分かった。さらに,姫路城マラソン 2025 の横断幕制作では,新たな技法として金箔を使用し,新たなメンバーも加わったことで前年度以上の作品を制作することができた。

上記の経験から,地域と協働し,持続可能で魅力的なイベントづくりに貢献するための知見を得ることができた。当団体と地域イベント・団体が互いに与え・与えられる良い関係性を築くことができた。

4. 今後の展望

当団体は3年生が6割以上を占めており,次年度からはメンバーが減少するため,勧誘に力を入れてメンバーを増やす,若しくは少人数でも活動できるように効率化や縮小化を達成しなければならない。

新規メンバー勧誘に関しては,来年度入学者をターゲットに1年生が受講する授業や春フェスでの宣伝を成功させられるかが重要なポイントである。

活動の効率化に関しては,少ない手間で大きな反響を得られる企画に拘ることが挙げられる。しかし,当団体の母体は総合美術同好会であり,創作活動を楽しむモチベーションを持って活動し,作品の制作事態を拘ることに主眼を置いている。効率化で手間を減らすことは作品に拘ることは矛盾しており,メンバーの意欲低下に繋がりかねない。そのため,メンバーのモチベーションを優先して活動数を削減し,一つひとつの創作に力を注ぐ手法も考えられる。

活動の幅を広げ,多くの地域イベントに関わりたい考えと,一つの作品に拘りたい考えにどのように折り合いをつけていくのかについて,今後団体を運営する次の世代を中心に検討しなければならない。